



## ～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

## 令和元年度第1回 認知症疾患医療連携協議会を開催しました。

## ～ 認知症ケアパスについて意見交換を行いました ～



8月19日（月）、令和元年度第1回認知症疾患医療連携協議会を開催しました。今回は「認知症ケアパス」を取り上げました。「認知症ケアパス」とは、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の進行や状態に合わせて受けられる医療・介護・福祉サービスを視覚的に示したものです。

はじめに、木津川市地域包括支援センター山城管理者・株柳氏より、「認知症ケアパスの活用方法」について教えて頂きました。実際の支援場面では、相談者と支援者の問題共有に乖離（かいり）が生じやすいのは何故か？という視点を切り口に、分かりやすく解説して頂きました。支援者が提案したサービスを、相談者が「まだそこまでは・・・」と断る時には、「支援者が早期診断・早期対応と捉える時期」と、「一般の方が認知症と判断して医療やサービスを考える時期」にズレが生じている。その時、ケアパスを使う事で、支援者と相談者の考える課題は繋がっている事が視覚的に分かりやすくなり、今取り組む事は何か（進行防止など）がはっきりして、具体的なサービス提供に繋がる事例を紹介いただきました。続いて、私から、「ケアパスを使っていれば良かったのでは？」という事例を紹介しました。早くから認知症の診断はついていたものの、介護保険導入は「そこまでは・・・」と家族が断られ、かかりつけ医に戻られてから通院が途絶え、症状悪化・家族が病気になってから再診希望されたケースでした。意見交換では、「日頃から相談に乗っているが、ケアパスを使う機会がない」との支援者の声や、「介護家族は、今が手一杯で、なかなか先を考えられない事がある」との家族を代弁した声も聞かれましたが、株柳氏の発表から多くのヒントをもらえたようでした。また、ケアパスを「認知症あんしんガイドブック」（精華町）として、患者家族にとって分かりやすいものにリニューアルしている行政もありました。最後に、「ケアパスはツールなので、使わないと錆びてしまう」（岩本先生）との示唆がありました。今回は良い話を聴けたと感じ、ご家族の相談の際にケアパスを使ったところ、「なるほど、そうだったのか」と腑に落ちたようでした。コミュニケーションのツールとしても活用してゆきたいと思っています。（地域医療連携室 臨床心理士 谷川 誠司）

## 問い合わせ先

地域包括ケア病棟“彩り”と老健やましろ（入所・ショートステイ・通所リハビリ）では、患者さん（利用者さん）の受け入れを積極的に行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

0774-73-1818（担当：中野・中嶋・松田）

## 人工透析室がリニューアルしました。

～ “彩り” では、透析患者さんを受け入れしています ～

人工透析を受けておられる患者さんは、介護施設（ショートステイ・入所）の利用が難しいことが多いため、地域包括ケア病棟“彩り”では、介護されているご家族の負担を軽減する目的で、人工透析の患者さんを受け入れしています。入院のご希望があれば、中谷先生（腎臓内科部長）に相談し、透析室のベッドの調整をします（他施設で人工透析を受けておられる場合には、透析の経過がわかる情報（紹介状・透析サマリーなど）が必要です）。

今夏、人工透析室がリニューアルしました。地域包括ケア病棟“彩り”では、引き続き人工透析を受けておられる患者さんを受け入れし、透析患者さんが住み慣れた地域で住み続けられるお手伝いのできると思っていますので、よろしくお願ひします。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

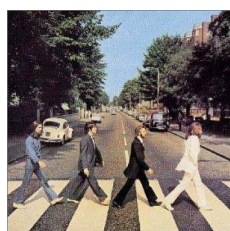


## 秋の連休、年末年始も受け入れします。

一時的に在宅医療や在宅介護が途切れる**秋の連休（9/14～16, 9/21～9/23, 10/12～10/14, 11/2～11/4）**や**年末年始**も、地域包括ケア病棟“彩り”では患者さんの受け入れを行っています。よろしくお願ひします。

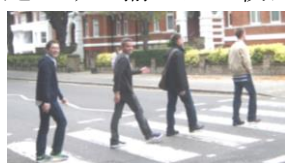
## 地域医療連携室より

～ 足並みを揃えて ～



1969年9月、ビートルズは「アビー・ロード」というアルバムをリリースしました。「アビー・ロード」のアルバムは知らなくても、メンバーが横断歩道を歩いている写真は有名ですので、ジャケットだけにご存知の方は多いかもしれません。

今年がアルバムがリリースされてから50年という節目の年のため、ジャケットが撮られた8月8日、横断歩道はファンで賑わっていたようです（ネットのニュースなどで取り上げられていました）。改めてジャケットを眺めると、見事に足並みが揃っています。この写真、実際には6枚撮られたそうなのですが、実際に使用された1枚以外は、足並みが揃わず、バラバラ。足並みが揃った1枚は貴重と言えるかもしれません。



さて、地域包括ケア病棟“彩り”は開設から8月で丸5年を迎えました。5年という節目を迎え、改めて、地域医療連携室内での足並み、病院としての足並み、山城病院組合としての足並みを揃えていきたいと思っています。さらには、アビーロードのジャケットと同じように、地域の皆様と同じ方向を向いて歩きたいと思っています。引き続き、よろしくお願ひします。（地域医療連携室 室長 南出 弦）